



NO. 808
 発行
 14・2月15日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 上石 昌彦
 編集責任者
 教 宣 部

今春闘ストで闘う体制を

第184回拡大中央委員会
 1月25日 国労会館



第184回国労拡大中央委員会が1月25日11時から国労会館で開催されました。今年度の拡大中央委員会は14名が発言、組織拡大・職場の現状・安全問題など、特に今春闘はストを配置して闘おうと、多くの発言がありました。

田中副委員長 開会あいさつ

田中副委員長は「JR北海道の安全問題で車両の脱線・レール検査数値改ざんや、JR西日本の脱線事故から安全は守れてない。国労の安全総点検の全国統一行動や合理

化反対など常に闘いから安全を確保してきた。春闘においては、安倍政権は賃上げを言っているが、政労使の会談の内容から極めて厳しい内容になっている。内部留保は取り崩さず、労働者の生産性向上による賃上げ率と言っている。

非正規労働者の要求を大きくしていく。春闘は国民的要求で共同行動による運動を展開していくこと。今春闘はストライキを配置して闘う体制を。組織拡大、闘争指令1号が出された。各地方・分会が確実にやりきる。職場の分会活

書記長集約



●組織強化拡大～統一行動を展開している。指令3号より統一した取り組みにしていく。働きやすい職場環境の改善から18名の拡大があった。しかし全国的な運動になっていない。職場活動を基本に国労の考え方を訴えることが重要だ。全国オルグを展開し組織経験交流会の開催で強化していく。

●春闘～厳しい生活実態だ、55歳賃金の減額などの状況。アベノミクスで日本は良くなったのか。内需拡大になっていない。円安になると中小企業は厳しい状況だ。賃上げし消費の底上げが必要だ。企業の内部留保が拡大している。賃金引上げ、労働条件改善などストライキを配置して闘う など委員から意見が出された。中央戦術委員会ですべて具体的に議論していく。

●三島・貨物問題～貨物会社のレール使用料やダイヤ改正の問題。トラック輸送は63%だがドライバーが少なく厳しい労働環境だ。そのことから貨物列車輸送が見直されている。貨物の賃金抑制～将来的に安心して働ける状況にしていく。

●職場活動～安心して働ける職場環境の改善、現場の労働者の目線に立った運動。労働者が何を望んでいるのか進めていく。

●労働条件改善、安全確保～JR北海道の現場での問題点は国労が指摘した内容だ。安心して働ける現場作り。点検摘発行動の実施や非正規社員の正社員化を目指す。

●リニア～並行在来線の問題について、厳しい経営状況だ。利用者、住民との運動が重要だ。BRTより利用者・地域住民は鉄路復旧を要求している。

●平和の問題～安倍内閣は戦争ができる国づくりを目指している。それを阻止していく闘いをつくっていく。反戦・平和・護憲、安心して暮らせるようにしていくこと。



「動の活性化が拡大につながっている。全国統一闘争を進めていく。今日をその出発点にしていく」とありました。

中央委員会構成メンバー 全員の出席を確認

委員会では、中央委員27名全員の出席と役員全員の出席を確認しました。議長団には、議長に盛岡地本の沢田委員・副議長に秋田地本の後藤委員が選出されました。その後、石上委員長のあいさつがあり、リニア問題検討委員会からの説明、方針提起が行われました。質疑・討論は午後から行われました。



全体の討論

● 地本の現状について・東日本大震災発生から2年10ヶ月が経過したが厳しい状況になっている。原発の放射能問題は、まだ影響している。地域住民は鉄道の復興を望んでいる。バス(BRT)が運行しているが定時運行になっていない。JR東日本は鉄道の復興はやっていない。鉄道を要求している自治体はBRTは拒否している。中学生は進学の時期になっ



て高校の選択に悩んでいる。鉄路が無いので通学できるところを考えている。三陸鉄道は開通した。国の全面的な支援を要求し鉄路の復旧を求めていく。

2010・7月岩泉線が廃止になった。土砂崩壊で復旧が困難。沿線自治体は鉄路復旧を要求しているが廃止になった。安全・安心な公共交通を求めていく。公共交通の復旧をJR東日本に要求していくこと。

平和と民主主義・安倍内閣は戦争への道へ進んでいる。2016年まで国政選挙が無い。地域自治体選挙



で国労組織内候補が当選した。地本では選挙対策委員会を設置した。戦争ができる国づくりを止める対策・体制作りをして議員を増やしていく。組織拡大4名拡大し組合員の意識が変化している。国労組合員が試験に合格していること。職場で平成採用者は仕事の面について見ている。信頼関係から拡大へつながっている。地道に話しかけ進めていく。指令1号を全体で取り組む。組対費を継続していくことなど意見が出されている

2014
地本春闘総決起集会の開催

3月10日



る。拡大行動についての財政保障をしていくこと。すべての闘いを職場の組織拡大の取り組みにつなげていくこと。

● 組織拡大1年間で3名、拡大した。運動に自信がついた。職場活動の取り組みが重要だ。他労組組合員は職場での問題点など扱いついて怒りが合ったが、それに対して労働組合は何もしてくれない。国労に加入した人は元国労組合員だった。拡大の条件を他労組が作り出している。年配元国労組合員への働きかけ、若い社員への働きかけが課題だ。労働組合の重要性の認識を訴えていく。組合差別、不当差別に対して闘っていくこと。拡大から、さらに一歩踏み出す取り組み。目標達成へやりぬくこと。財政支援の要請。

春闘学習会、決起集会の開催。単組を超えた取り組みを生かして進めていく。一職場一要求をし現場長へ申し入れをしていくこと。分会活動の活性化へ。

安全問題く安全行動計画・職場で

決められたことがやられていない。伯備線で触車事故が発生している。



● JR北海道の事故、レール検査数値改ざんなどは国鉄分割・民営化が大きな原因だ。財政赤字、要員の合理化など影響している。データ改ざんはJR西日本にもある。レールの取り付けボルト緩み検知器を導入した。それによって合理化された。検知器が正確に数値を示さない。現在は使用していない。結局、人によって検査している。安全問題を追及するのは国労だけだ。

関連会社バス会社では労働時間が厳しい状況だ。そのため中国JRバスへ団交し要求が解決した。単一組織だから解決した。

反原発の闘い集会など参加、原発を建設させない取り組みを進めている。

2014春闘は国民的課題で闘う。地域での闘いは国民的課題で一点共闘として集会が取り組まれる。ストライキを配置し闘う。地域と連帯し仲間を増やす。



● 中央委員会のありかた日程について前段の内容(リア問題検討委員会の説明)に時間がかかる。委員全員の発言ができない。ひとりでも多くの発言を保障して欲しい。

第82回全国大会で決定した組対費について中央委員会での提案内容は違うのではないか。ここで組対費の徴収について決定するの。

2014年春闘は1万円の要求額昨年の2倍だ。昨年よりも取り組みを強化しなければならぬ。消費税が8%になる。ペー1万円でない赤字になる。ストライキの配置を。指名スト・時限スト・拠点ストなど。いつでもやれるような体制をつくること。スト基金が現在5億8千万円だ。徴収の再開を求める。

反合理化・安全問題く会社の姿勢は利益追求だ。保線職場は、レールの状態が厳しい状況になっている。予算が無い、社員の削減など強行されている。現場の実態について全体を把握していくこと。会社の姿勢を改めさせること。

組織拡大6名の拡大。拡大によって職場が活性化された。現場では超勤が1ヶ月250時間発生している。組織拡大36協定を取る。

教宣活動く国鉄新聞の内容について改善を求める。参考にできるような記事内容にして欲しい。国労文化も同様だ。国労文化の発行はいつになるか？



(次号に続きます。)